

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会への挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているといえます。

ドル/円相場のトレード戦略

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものにとどまるとの観測が出ると、ドルは113円台を回復する動きとなっています。

年末に向けては、9月FOMCで米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が現実味を帯びてきたためドルの上昇基調継続が期待されるものの、米国の財政政策は期待ほど大きなものとはならない可能性も高く、ドルの上値も限られたものとなり、再び110円～115円のレンジ取引が続くものと予想します。

■短期展望

先週は、週初112円後半でスタートしたものの、ドルの上値は重くじりじりと軟化する動きとなりました。

FOMC議事要旨(9月19～20日開催分)で「一時的でない低インフレを懸念している」とハト派と取れる見解が示されたことや週末の米消費者物価指数が予想を下回ったことなどがドル売りの材料となり111円69銭まで下落し、111円台で週を越えています。

今週も、先週同様ドルの上値の重い動きが続きそうですが、下値を売り込む材料もなく、明確な方向感を見出しにくい相場展開となりそうです。

したがって、111円～113円半ばのレンジ取引をメインシナリオとし、16日から始まる米韓合同軍事演習や18日から開始される中国共産党大会に合わせた北朝鮮のミサイル発射などの挑発行為による一時的な円高をリスクシナリオと考えます。